

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育発達支援スタジオ CoreMoreClass東浦和			
○保護者評価実施期間	R7年 1月 4日 ~ R7年 2月 28日			
○保護者評価有効回答数 (対象者数)	48人	(回答者数)	39人	
○従業者評価実施期間	R7年 1月 4日 ~ R7年 1月 16日			
○従業者評価有効回答数 (対象者数)	8人	(回答者数)	7人	
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 15日			

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<多職種連携> 保育士、児童指導員、音楽療法士、作業療法士、言語聴覚士が勤務している。年齢も様々だが、経験値も多種多様（幼稚園、学童保育、保育園（民間、公立）病院、療育センター、放課後デイサービス、保育園管理職経験者など）のため、様々な視点からの支援が提供できる。	支援の前後に打合せと振り返りを行っており、様々な職種がそれぞれの視点から意見を伝えあうことで、共通認識を持ち、継続した支援が行えるよう工夫をしている。お子さんの成長をいろいろな角度から見ることができるために、支援の幅が広がる。作業療法士が身体の使い方を評価したり、音楽療法士や言語聴覚士が遊びや音楽を通じて言葉を育んだり、児童指導員や保育士が集団の中でお友達とのやりとりやルールや約束を守りながら活動できるよう環境を整えるなど、それのお子さんに合わせて支援を行うことができる。	職員の人数が多く、次年度からは週6開所になるため、全員で話し合いを行う時間はなかなか取れなくなるが、今までと変わらず継続した支援が行えるよう、ノートを使って情報共有を行ったり、確実に引継ぎができるよう工夫をしていくたい。様々な職種、幅広い年齢、経験値も違う職員が集まっているため、職員の学びや質の向上に繋がるよう、研修や勉強会の機会も作っていきたい。
2	<グループ支援の充実> 5名程度の少人数のグループを4名の職員で支援しているため、一人一人のお子さんを丁寧に見ることができる。また、利用日が固定化されているため、グループに早く慣れることができ。様々な年齢や特性のお子さんがいるため、異年齢の関わりを経験したり、他者意識が高まる。	職員の人数が多いため、グループの活動中でもお子さんの様子を見て、参加の仕方を検討するなど、ひとりひとりに合わせたプログラムが提供できる。基本利用日が固定されており、毎回同じお子さんと顔を合わせることが多いため、年上のお友達が年下のお友達のお世話をしたり、お友達のやっていることを見る中で、周囲への意識の高まりが見られる。	次年度からは非常勤職員のシフトを固定化することで、お子さんがより安心して通えるよう工夫していく。様々な特性や年齢のお子さんがいることが事業所の強みではあるが、活動内容によっては、お子さんの年齢や発達段階に合わせた課題や取り組みを考えていく必要がある。様々な活動を通して、お子さん一人一人が楽しく取り組めるよう工夫をしていくたい。
3	<集団と個別の相互的アプローチ> 小集団と個別支援を並行して行うことができる。小集団は保育士や児童指導員を中心に、個別支援は作業療法士や音楽療法士、言語聴覚士を中心に行っている。	グループと個別支援の職員が一緒に打合せや振り返りを行って、共通認識を持って支援を行うことができる。グループの中での課題を個別支援の職員と共有したり、個別支援でできることをグループの中で発揮するなど、連携して取り組んでいく。	日々の打ち合わせや振り返りの時間では、職員間でお子さんの課題の認識の違いがあった際に話し合うことが難しいため、ケースカンファなど別途時間を作っていくよう工夫をしていくたい。今後、どの職員もグループや個別支援の提供を行っていくようにすることで、不測の事態などにも対応できるような体制を作っていくたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<地域との連携> ・小学校、幼稚園、保育園、相談支援事業所、児童発達支援、放課後デイサービスと情報共有を行うことで、地域の中で途切れのない支援を行えるように地域の中で連携を取っていくこと。 ・地域の人たちに事業所を知つてもらえるような取り組みを行うことができていない。	・保育園、幼稚園、小学校との連携や児童発達支援、放課後デイサービスと情報共有を行うことで、地域の中で途切れのない支援を行えるように地域の中で連携を取っていくこと。 ・地域の人たちに事業所を知つてもらえるような取り組みを行うことができていない。	関係機関連携で保育園や幼稚園には積極的に行かせていただいているが、今後は移行支援に向けて、小学校、放課後デイサービス等に見学に行き、情報共有やご家族に情報提供ができるようにしていきたい。セルフプランで事業所を複数利用されているお子さんに関しては、他事業所との連携を積極的に行っていき、共通認識を持ち、支援を行いたい。また、地域の方が気軽に来られるような事業所作り（見学会、育児相談、講習会など）を行ったり、幼稚園保育園交流、地域のスーパーにお買い物なども検討したい。
2	<家族支援> 個別支援計画のご説明や家族支援として面談の時間を取らせていただいているが、親子分離という事業所の特徴もありまとめて保護者様とお話をする時間が少ない。様々なニーズに対応していくこと。アセスメントツールの活用。	・子育てサポートの提供がなかなかできなかった。事業所の構造上、面談場所が限られており、かつプライバシーの確保をすることが難しいと感じている。 ・アセスメントツールを使って、発達段階についてお伝えする機会がない。KIDSや感覚ファイルをすでに利用しているが、振り返りを行う時間がとれていらない。	・年間計画に面談や親子通所日の日程を組み込んでいくなど、ご家族の方たちとお話する時間を取りたい。今年度から始めた保護者向け勉強会は、更なる充実をはかっていきたい。次年度から週6開所になり、様々なご家庭のニーズに対応していく。 ・標準化されたアセスメントツールを使用することで、どの職員もお子さんの発達について話せるよう、研修機会を持つ。KIDSや感覚ファイルの結果をFBし、情報共有を行う。
3	<マニュアルの周知> 安全計画、防犯マニュアル、感染症対策など事業所の取り組みを知つてもらうこと。	マニュアルや計画の策定を行っているが、事業所アンケートの結果を見ると、保護者の方々に周知ができていなかった。	事業所にて、どのような対策や取り組みを行っているのかを活動記録やインスタなどで発信していくようにしたい。